



校長室だより

校長 山崎 聡子

全校朝会

先日行った全校朝会において、子供たちに「天国と地獄」という話を紹介しました。地獄は、片腕が椅子に縛られ、もう一方の手には柄の長いスプーンがくくりつけられていて目の前にある御馳走を食べたくても食べることができず、辛い思いをしている…。でも天国は、同じ状況なのに、みんな笑顔…。なぜなのか。リモートでの朝会のため、その場で子供たちとやりとりはできませんでしたが、理由に気付いた子供たちもいたことと思います。その理由は、お互いに「何が食べたいかな？」と聴き合って、相手が食べたいという物を自分のスプーンですくって、お互いに食べさせ合っているからです。

この話を通して、子供たちには、人は完璧ではなく、弱さをかかえているがゆえ、相手のことを考えずに行動してしまうことが誰の中にもあると話しました。でも、人の中にはよりよく生きたいという思いがあること、だからこそ、天国と同じ状況を創り出すことができる力が一人一人にあると話しました。そして、それは学校の中のあちこちで、見られることを伝え、子供たちが温かく関わり合う姿を写真を通して紹介していきました。写真で紹介したものは、ほんの一部ですが、高学年が低学年を支える姿、2年生が1年生を支える姿、同学年同士の中で見られる助け合う姿等、心温まるすてきな姿を子供たちに見せていきました。

誰もが弱さをかかえているからこそ、お互いの弱さを認め合った上で、よりよいものをみんなで創り上げていけるよう、助け合いや

支え合いを大切にしていきたいと考えています。

すてきな子供たち

4年生の理科「電池のはたらき」の学習の授業の中の一場面でのできごとです。その中で並列つなぎをして、プロペラが回転するかどうか、一人一人が確かめていました。その時に、つなぎ方は合っているのに、プロペラが回転せずに困っている子がいました。その様子に気付いたクラスの友達が、一人そばに来て一緒に見てくれました。それでも、うまく回らず困っていると、もう一人そばに来て一緒に考えてくれました。自分のプロペラが回ったから、それでおしまいではなくクラスの仲間のことを気にかけていくすてきな瞬間に出あうことができました。さらにすばらしかったのは、つないだ導線を全部はずし、再度つなぐことをその子自身がやり始めた姿とともに、その様子を見守る2人の姿でした。諦めずにチャレンジする気持ち、そして、手を出しすぎず、優しく見守ることができる2人の姿に感心しました。結局はつなぎ方に問題はなく、導線がプロペラに触れていたことで回転ができなかったことに気付くことができました。そこにいたるプロセスの中で子供たちのもつ豊かな力が表出された瞬間に出あうことができました。

また、運動会直前の練習を見に行った時に「見に来てくれてありがとう」と2年生が声をかけてきました。「ありがとう」という言葉が、私だけでなく聴いている仲間の心も温めたことと思います。日常的にあるすてきな姿を今後も見出していこうと思います。